

私は飛行機に乗るとき、安全とわかっていても少しびくびくしてしまいます。金属の塊が空を飛ぶという身近な常識を越えた現象に本能的に怖いと思うからでしょうか。ところが、鉄道ではほとんど不安を感じません。もちろん、鉄道も重い車体が高速で疾走するのですから、江戸時代の人なら怖かったかもしれません。しかし、現代では鉄道が日常そのものになっており、多くの人に安全かつ精確な乗り物として認知されています。

今月号の特集は、この安全で精確な鉄道を陰で支える「検査診断技術」でした。検査診断は日頃あまり表には出ない地味な

ものですが、安全を支える重要な技術です。鉄道は、車両の他にも電力を取り入れる架線やパンタグラフ、車両を支える線路、その下には土木構造物と様々な分野から成り立っています。そのため、安全を確保するために種々の検査項目がありますが、鉄道総研では、様々な分野の人たちがそれらの省力化や精度向上を目指して日々研究を進めています。

次号の特集は「実験技術」です。鉄道総研が独自に開発した実験技術の研究成果を中心に報告いたします。ご期待ください。(M.U)